



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2023年5月14日(日) 9:30~12:00(雨)

参加者 一般:1名

指導員:5名

## テーマ 夏鳥は来たか？

5月は野鳥の繁殖シーズンにあたり、毎年5月10日から16日はバードウィーク(愛鳥週間)に指定されています。そこで、テーマは夏鳥としましたが、あいにくの雨で野鳥観察には不向きな条件です。今年はムシクイ、ヒタキの仲間などの夏鳥が少なめということですが、それでも上空をツバメが餌を探して飛び回り、ヨシ原ではオオヨシキリの「ギョギョシ、ギョギョシ」の縄張り宣言が響き、林の中ではキビタキの囀りが聞かれました。

虫はというと、雨のせいカチョウなどはあまり飛びませんが、川原で熟したマグワの実を賞味している時、参加者が枝や葉に白い糸のようなものを見つけました。この白色が目立つこの時期だから気づくのですが、普段はあまり関心を持ってみる事が出来ない小さな虫で、カメムシ目(セミ、カメムシ、アブラムシなどの仲間)のクワキジラミで、桑の害虫として知られています。ルーペで見ると、淡緑色の幼虫が尾部から長い紐状の白いロウ物質を分泌していることが確認できます。

この日は、よく似たメキシコマンネングサとツルマンネングサをじっくりと観察してみました。メキシコマンネングサは園芸種らしく花のつき方が豪華です。葉は花のつく茎は互生、花のつかない茎は輪生(4~5枚)で、円筒形の棒状です。一方、ツルマンネングサは輪生(3枚)で、葉は肉厚で扁平な形状で、花のつかない茎はよく地上を這います。

今年は初夏の花の開花が早かったのでしょうか。例年、5月の第2土曜の観察会で咲いていたヤセウツボ、ハクウンボク、トチノキなどは既に花の時期を過ぎていました。(報告:齋竹)



(メキシコマンネングサを観察中)

### <その他見られたもの>

鳥:キジバト、ヒバリ、ホオジロ、メジロ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ウグイス(声)、シジュウカラ(声)、キジ(声)、コジュケイ(声)、コゲラ(声)、サンショウクイ(声)

虫:ヒメウラナミジャノメ、コムスジ

花:タイサンボク、オオキンケイギク、フタナ、コウゾリナ、ノアザミ、ヒメジョオン、ハルジオン、ヒサウチソウ、マツバウンラン、カナビキソウ、ナヨクサフジ、シロツメクサ、コメツブツメクサ、クスダマツメクサ、ムラサキツメクサ、コメツブウマゴヤシ、オッタチカタバミ、ユウゲショウ、コマツヨイグサ、ミナトマツヨイグサ、ヘラオオバコ



花が目立つメキシコマンネングサ



3輪生のツルマンネングサ



クワキジラミの白い分泌物



クワキジラミの幼虫